優秀賞
組合員ホール

宮崎県
株式会社 西の丸
「MRI更新
クラウドファンディング寄付金」
事業

株式会社 西の丸
代表取締役社長
西谷 淳さん

住民の命を守るために欠かせない中核病院のMRI装置の更新のため資金協力

景観美化や清掃活動などを中心に地域への恩返しを実践する一善の会

心地よい環境の中で、誰もが安心・安全に暮らすことが、地域住民にとっては何よりの喜びに違いない。そのためには、誰かが基盤を整えたり、維持に努めたりしなくてはならない。その「誰か」とは、国や自治体はもとより、そこに住まう住民自身であったり、その地域で事業を営む企業だったりするのではないだろうか。

日向灘に面した宮崎県北部の門川町に本社を置き、延岡市、門川町、日向市を中心に県内にホールを展開する株式会社西の丸は、1976年の設立以来、「お客様が喜ばれる姿を見て我が喜びとする」を創業の原点に営業を続けるとともに、数多くのボランティアや地域貢献活動にも積極的に取り組んでいる。

同社の地域に密着したボランティア活動の核となるのが、1994年にスタートした「一善の会」である。これは地域への謝恩活動を総称する名称で、全社員と家族および子どもたちが“感謝”と“報恩”の心を持って、地域の美化と清掃などを中心とした活動に参加している。毎月、延岡市、日向市、門川町、川南町、都農町などにある道路、公園、駅、海浜などで、景観美化として約120ヵ所の花壇に四季の花植え・水遣り・除草などを行ったり、清掃活動としてゴミ拾いや草刈りなどを行ったりしている。また、県北地区の交通安全協会を通じ、新入学児童に対して反射材付きランドセルカバーを寄贈したり（1999年度から継続）、福祉施設に入所する子どもたちに支援金や年賀状を寄贈している（1978年より継続）。

継続的に実施している地域の清掃活動

西の丸本社を来訪した宮崎県済生会日向病院関係者と西谷栄一会長（中央右）と西谷淳社長（右端）

ランドセルカバーの贈呈式

緊急の病気やケガの診断に欠かせないMRI装置の更新を支援する取り組み

こうした活動と並行して、2023年には地域医療の中核となっている宮崎県済生会日向病院が実施したクラウドファンディングに対して100万円を寄付した。このクラウドファンディングは、病院のMRI（磁気共鳴画像）装置の更新費用を調達することを目的に立ち上げられたもので、1,000万円を目標金額に、2023年11月1日～12月25日まで実施された。

済生会日向病院は1958年に門川町に開設された病院で、内科、外科、小児科など13科から成り、地域災害拠点病院にも指定されている。同病院では1992年にMRIを導入し、近隣の病院やクリニックなどからの紹介検査も含め、年間約1,700件の検査を行っている。MRI診断により緊急手術・緊急入院となる事例も、年間約120件ほどに上るという。命に関わる病気や緊急度の高いケガなどの診断に欠かせないMRI装置だが、2009年に導入された現行機は経年劣化に加え、故障時の修理部品の供給が24年3月で終了することになっている。地域住民の命と健康を守るためにもMRI装置の買い替えはすぐにでも行うべきことだが、1台更新するには約2億円の費用が必要となるという。昨今、病院経営も苦しいなかで、少しでも購入の負担を減らすことができればということで、同病院では1,000万円を目標に、クラウドファンディングを実施することにした。

結果的に、382名から支援があり、目標金額をはるかに上回る2,000万円以上の寄付があった。株式会社西の丸では自らの寄付に加え、同病院の寄付WEB登録と振り込み、応援メッセージの入力作業を行った。約10年前に、同社の幹部社員が困難なすい臓がんの手術・治療を受け、その後回復した御礼も兼ねての今回の支援だったというが、同病院のホームページや病院内には、支援者として同社の社名が掲示されている。